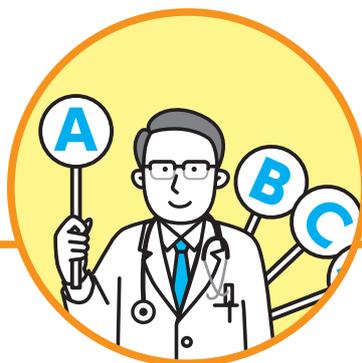


胃がんリスク ABC検査

のご案内



胃がん

99%



あなたは?



?

胃がんの99%以上は“ピロリ菌感染”が原因!

ピロリ菌感染により胃の萎縮も進行します

A?

B?



C?

D?

ABC検査は
生涯に1度で
OK

血液検査でピロリ菌感染の有無・胃の萎縮度合いを
調べて今後の胃がんリスクをA・B・C・Dで判定します

B
C
D



除菌
治療



陽性(B・C・D群)の場合、早期に医療機関を受診する
ことで 今後の胃がんリスクが大幅に低減します



検体



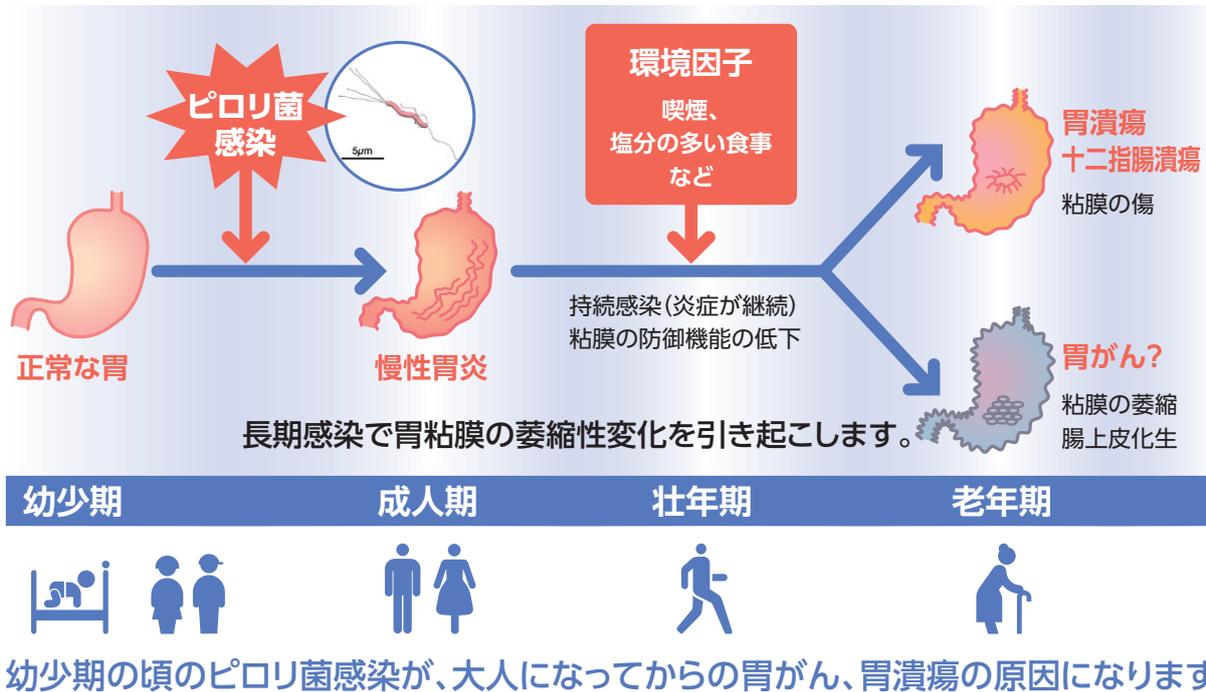
検査
結果



ABC検査は **ご自宅** で受診ができ、

検査結果も **ご自宅** に届きます

「胃がん」の原因の多くは「ピロリ菌」感染です!



あなたの胃の状態は?

「胃がんリスクABC検査」とは…

「血液検査」により

- ピロリ菌感染の有無(ピロリ菌抗体検査)
- 胃粘膜萎縮の程度(ペプシノゲン検査)

を測定することで、

胃がんの発生リスクを A~D の4群に分類する検査です。

ABCD判定 ↓	ピロリ菌 抗体	ペプシノ ゲン値	胃粘膜状態の予測	1年間の胃がん 発生頻度の予測	胃がんの 危険度
A 群	- (陰性)	- (正常)	 ピロリ菌感染がなく、 胃粘膜萎縮もない	ほぼ0人	胃がんになりにくい
B 群	+ (陽性)	- (正常)	 ピロリ菌感染があるが、 胃粘膜萎縮は軽度	1,000人 に1人	胃がんになりやすい
C 群	+ (陽性)	+ (異常)	 ピロリ菌感染があり、 胃粘膜萎縮が進行中	500人に 1人	
D 群	- (陰性)	+ (異常)	 胃粘膜萎縮が高度で、 ピロリ菌も住めない	80人に 1人	

「胃がんリスクABC検査」の実施判定チェック

これまでに医療機関で「ピロリ菌の除菌治療」を受けたことがありますか？

いいえ

はい

除菌に成功した

ピロリ菌に感染したことのある胃は、除菌治療に成功していてもピロリ菌に一度も感染したことのない胃と比べて胃がんのリスクは高い状態です。

除菌治療後も経過観察が必要となりますので、以後も定期的に受診・胃部内視鏡検査を実施しましょう。

除菌に失敗した、途中で治療をやめた

お早めに医療機関に再受診を行ってください

●必要に応じ、本ご案内の郵送検査もご実施ください



●過去にピロリ菌の除菌治療に成功されている方は、
ABC判定の対象にはならず、全て「E群(除菌群)」として区別されます。
そのため、本ご案内の郵送検査実施は必要ありませんので、申込をご遠慮ください。

右の項目に1つでも当てはまる症状等がありますか？

- 食道、胃、十二指腸の疾患が強く疑われるような自覚症状がある
- 食道、胃、十二指腸の疾患で治療中
- 胃酸分泌抑制薬(プロトンポンプ阻害薬)を飲んでいる、または2ヶ月以内に飲んでいた
- 胃の切除手術を受けたことがある
- 腎機能障害がある(目安:クレアチニン3mg/dL以上)
- 免疫不全・低下状態、ステロイド服用中(塗り薬は除く)

いいえ

はい

引き続き医師の診察・指導をお受けください

●本ご案内の郵送検査実施は必要ありません

お早めに本「胃がんリスクABC検査」を受診し、ご自身のリスク確認を行ってください!

検査項目

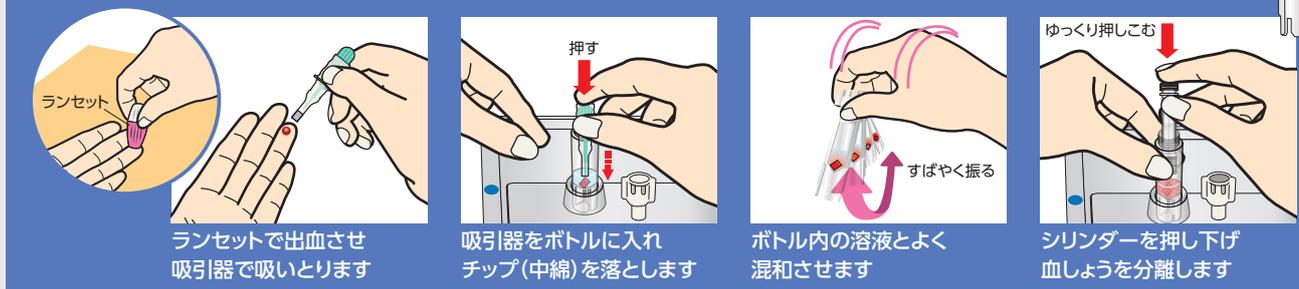
- ピロリ菌抗体 (ピロリ菌の有無を判定)
- ペプシノゲンⅠ・Ⅱ (萎縮性胃炎を判定)
- ABCD判定 (胃がんリスクを判定)



自宅でカンタン採血…「胃がんリスクABC検査」



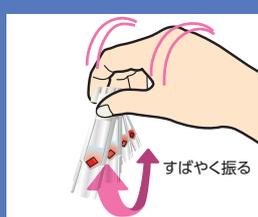
採血方法 採血は約5分でかんたん。血液量はわずか0.065ml(従来の検査に比べて約150分の1)。



ランセットで出血させ
吸引器で吸いとります



吸引器をボトルに入れ
チップ(中綿)を落とします



ボトル内の溶液とよく
混和させます



シリンダーを押し下げ
血しょうを分離します



DEMECAL取り扱い説明動画 (Youtube)
<https://youtu.be/Mc8So6MAAVE>



厚生労働省承認血液検査キット

「胃がんリスクABC検査」の結果が… 陽性(B・C・D群)判定だった場合

B・C・D群の方は、2ヶ月以内を目途に医療機関への受診をお願いいたします!

「除菌治療」受診の流れ



医療機関を受診

主に「消化器内科」で精密検査(内視鏡検査)を実施します



抗菌薬による除菌治療

胃酸の分泌を抑制する薬と2種類の抗生物質の3つの薬を一週間服用します。



除菌確認のための診療

除菌ができたか、呼気検査等で確認をします。万が一除菌がされていない場合は、再度抗菌薬が処方されます。



除菌完了!

以降は定期的に精密検査(内視鏡検査)を受診してください。

医療機関受診後は… 健保組合からの「Webアンケート」にご回答ください



検査結果通知時に調査依頼のご案内をいたします。
ご回答が確認できない場合には健康保険組合または委託先よりご連絡をする場合がございます。

業務委託先：株式会社サンプリ

胃がんの予防・早期発見・早期治療のために

この「胃がんリスクABC検査」でご自身のリスクを確認したら、今後は「早期発見・早期治療」のため検診や診察を定期的に行い、「胃がんにかかりにくい生活習慣」を心がけましょう！

1. 定期的な検診・診察

特に本検査でB・C・D群と判定された方は、除菌治療後も定期的に検診（胃部内視鏡検査）を行ってください。

胃部内視鏡検査の実施目安

A群	5年に1回
B群	3年に1回
C群	2年に1回
D群	1年に1回(毎年)

*自覚症状がある場合にはこの頻度を待たず、お早めに受診してください

ピロリ菌除菌治療に成功した場合、胃がん等の胃の病気になるリスクは1/3程度下がるといわれていますが、ゼロになるわけではありません。
【胃がんの早期発見のために】定期的な胃部内視鏡検査が有効といわれています。



◆胃部内視鏡検査とは…

先端に小型カメラ、またはレンズを内蔵した、太さ1cm程の管を口または鼻から入れ、胃の内部を観察し、場合により治療を行うものです。

近年では、経口内視鏡より細い管の「経鼻内視鏡」を実施する医療機関も増えています。

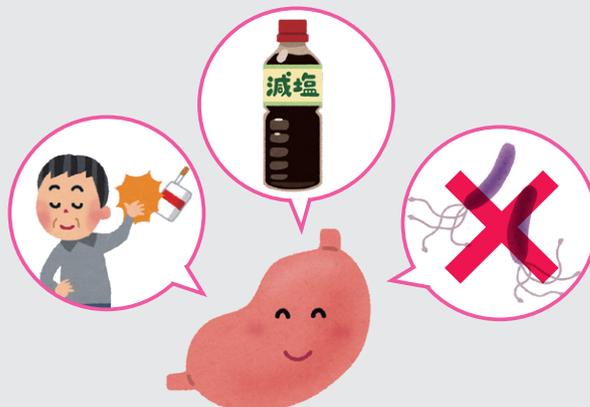


2. 胃がんを予防するための生活習慣の実施

胃がんの場合は

- 禁煙すること
- 塩分や高塩分食品の取りすぎに注意すること
- ヘリコバクター・ピロリの除菌

が有効であることが分かっています。



(出典:国立研究開発法人国立がん研究センター「がん情報サービス」)

特に、B・C・D群と判定された方は、これらに注意し生活習慣改善を心がけましょう。